

令和4年度
(第12期)

事業状況報告書

自 令和4年 4月 1日

至 令和5年 3月31日

事業状況報告書

本年度は、主な事業として、表彰、助成、講演会、標準化、自主研究などの事業を実施し、所期の成果を挙げ、ウェアリング技術の向上、発展及び普及啓発に貢献した。

1. 会議

(1) 理事会

令和4年 5月24日(火) [第23回 Web開催]
令和5年 3月8日(水) [第24回 会場+Web ハイブリッド開催]

(2) 評議員会

令和4年 6月15日(水) [第23回 Web開催]
令和5年 3月16日(木) [第24回 会場+Web ハイブリッド開催]

(3) 高校生探究助成(財団40周年記念事業)検討委員会

令和4年 8月2日(火) [第1回 Web開催]
令和4年 12月20日(火) [第2回 会場+Web ハイブリッド開催]

(4) スガウェアリング財団賞表彰及び助成審査委員会(会場+Web ハイブリッド開催)

令和5年 2月8日(水)

2. 主要事業の概要

2.1 スガウェアリング財団賞表彰及び助成

(1) 第40回表彰・第41回助成贈呈

新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、令和4年4月26日(火)に贈呈式をWebにて開催した。なお、記念祝賀会の開催は中止した。Web開催後、贈呈式の動画を関係者限定で配信した。

[表彰] 科学技術功労賞…1件
技術功労賞…1件

[助成] 研究助成…5件 …〔添付資料①〕
国際会議助成…1件

(2) 第41回表彰・第42回助成候補者募集

募集期間は令和4年7月～10月末までとし、全国の大学及び学会・協会・産業界・団体等約280機関に対して推薦を依頼した。また、当財団ホームページで募集した。

(3) 第41回表彰・第42回助成選考及び決定

令和4年11月～12月にかけて書類選考を実施した後、ヒアリングを令和5年1月25日(水)、1月26日(木)、2月1日(水)、2月2日(木)に実施、令和5年2月8日(水)の審査委員会において審査し、次の表彰・助成を選考、令和5年3月8日(水)第24回理事会において決定した。

[表彰] 科学技術賞…1件
科学技術奨励賞…1件
科学技術功労賞…1件

表彰・助成贈呈式は、令和5年4月26日（水）に霞山会館にて開催することとした。

(4) 高校生探究助成（財団設立40周年記念事業）

令和5年度より、大学や研究機関向けの助成事業に加え、新たに高等学校および高等専門学校向けに「高校生の探究」を支援する助成事業を開始するために、検討委員会を設置し、事業の骨子、募集の書類及び広報の方法について検討した。令和5年3月の理事会及び評議員会の承認を経て、令和5年3月24日（金）に内閣府へ事業変更届出書を提出した。

2. 2 講演会事業

本年度も、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、対面式のスガウェザリング学術講演会は行わず、講師のみスガ試験機(株) NS ホールにて講演を実施し、Web 配信とした。

第73回スガウェザリング学術講演会

開催日：令和4年11月25日（金）

方 法：ライブ配信

参加者：406名

…〔添付資料③〕

2. 3 標準化事業

本年度は、ウェザリング技術に関する標準化事業として、下記規格の改正原案の作成を行った。

JIS L 0843（キセノンアーク灯光に対する染色堅ろう度試験方法） 改正中

JIS L 0849（摩擦に対する染色堅ろう度試験方法） 改正中

2. 4 自主研究

(1) 耐候光研究

繊維の耐光堅ろう度試験規格に規定のブルースケール各級を用いて、キセノンランプ光源の促進耐光性試験を行い、標準退色までの放射露光量を確認、過去の試験データと比較し、規格値との関係性を確認した。

(2) 腐食研究

電子部品のガス腐食試験規格に規定の腐食性モニタ材料（銅試験片）を用いて、各種のガス腐食試験を行い、試験結果の厳しさを確認、過去の試験データと比較し、規格値との関係性を確認した。

また、ガス腐食試験の精度の向上、再現性向上を目的に、試験結果に影響を及ぼす要因を検討し、それらの影響の程度を実験により求めた（継続中）。

2. 5 普及啓発事業

学術講演会開催に当り、「第73回スガウェザリング学術講演会要旨（PDF形式）」を発行した。講演会参加者に販売すると共に、以後関係者に販売し、ウェザリング技術の普及活動を行った。

3. 外部団体への協力

3. 1 外部団体等の研究への参画及び協力

当財団より下記委員会に委員を派遣し、協力した。

- (1) (一社) 繊維学会 堅ろう度標準化研究委員会
- (2) (一社) 繊維評価技術協議会 国際標準化委員会
- (3) (一社) 繊維評価技術協議会 繊維標準化委員会
- (4) (一社) 電子情報技術産業協会 ディ스플레이デバイス標準化委員会傘下 耐久性試験 G

3. 2 外部団体の会議開催などの協賛及び協力

- (1) (一社) 日本鋼構造協会主催の「第45回鉄構塗装技術討論会」に協賛した。
〔令和4年10月20日(木)～21日(金) 市ヶ谷自動車会館〕
- (2) (一財) 日本ウエザリングテストセンター主催の「令和4年度ウエザリング技術研究成果発表会」に協賛した。
〔令和4年12月2日(金) オンライン開催〕

第40回 スガウエザリング財団賞 表彰

[科学技術功労賞] 本賞：表彰状 副賞：(1)ギリシャ神話像記念楯 (2)賞金20万円

	受賞者	研究業績の名称	推薦団体
1	いわせ ゆか 岩瀬由佳 (一財)化学物質評価研究機構 東京事業所 高分子技術部 主任	製品の使用環境を想定したゴム材料のオゾン劣化に関する研究とその標準化	<ul style="list-style-type: none"> ・ ISO/TC45 国内審議委員会 ・ (一社) 日本ゴム工業会 ・ 長岡技術科学大学

[技術功労賞] 本賞：表彰状 副賞：(1)ギリシャ神話像記念楯 (2)賞金10万円

	受賞者	研究業績の名称	推薦団体
2	しもいのぶひろ 下井信浩 秋田県立大学 システム科学技術学部 教授	鋼材接合部の健全性に関する長期モニタリング技術の構築	秋田県立大学

所属・肩書きは受賞決定当時 敬称略

第41回 助成金 贈呈

[研究助成]

	助成金受領者	助成課題	推薦団体	決定額
1	おおやまようすけ 大山陽介 広島大学 大学院先進理工系科学研究科 工学部 教授	メカノフルオロクロミズムを利用したひずみ・損傷の可視化検出法の確立	広島大学	50万円
2	しとみ ひろし 薮 洋司 産業技術総合研究所 物理計測標準研究部門 光放射標準研究グループ 研究グループ長	標準白色面の紫外放射による劣化特性およびその抑制に関する研究	産業技術総合研究所	100万円
3	ちば まこと 千葉 誠 旭川工業高等専門学校 物質化学工学科 准教授	乾湿繰り返し環境にて形成するアルミニウム合金酸化皮膜の表面電位と耐食性	旭川工業高等専門学校	100万円
4	ふじいともゆき 藤井朋之 静岡大学 工学部 機械工学科 准教授	水素容器用アルミニウム合金の応力腐食割れ発生条件の検討	静岡大学	100万円
5	まつおみゆき 松尾美幸 京都大学 生存圏研究所 准教授	木材の長期経年変化を再現する促進劣化法の開発	京都大学 生存圏研究所	50万円
			合計	400万円

所属・肩書きは助成決定当時 敬称略

[国際会議助成]

	助成金受領者	国際会議名	推薦団体	決定額
1	いまづせつお 今津節生 奈良大学 文学部 文化財学科 文学部長 教授	東アジア文化遺産保存シンポジウム in 札幌	日本文化財科学会	50万円
			合計	50万円

所属・肩書きは助成決定当時 敬称略

第41回 スガウエザリング財団賞 表彰

[科学技術賞] 本賞：表彰状 副賞：(1)正倉院記念楯 (2)賞金50万円

	受賞者	研究業績の名称	推薦団体
1	いたがきまさゆき 板垣昌幸 東京理科大学 理工学部先端化学科 教授	コンクリートの鉄筋腐食環境 モニタリング法の開発と適用	東京理科大学

[科学技術奨励賞] 本賞：表彰状 副賞：(1)ギリシャ神話像記念楯 (2)賞金20万円

	受賞者	研究業績の名称	推薦団体
2	どいこうたろう 土井康太郎 国立研究開発法人 物質・材料研究機構 構造材料研究拠点 独立研究者	高酸素反応促進技術によるイ ンフラ構造材料の腐食機構解 明と耐食性向上	国立研究開発法人 物質・材料研究機構

[科学技術功労賞] 本賞：表彰状 副賞：(1)ギリシャ神話像記念楯 (2)賞金20万円

	受賞者	研究業績の名称	推薦団体
3	はやし しげなり 林 重成 北海道大学 大学院工学研究院 材料科学部門 教授	耐熱合金上への保護性アルミ ナ皮膜形成機構とその相変態 挙動に関する基礎的研究	北海道大学

所属・肩書きは受賞決定当時 敬称略

第42回 助成金 贈呈

[研究助成]

	助成金受領者	助成課題	推薦団体	決定額
1	いしぎたかひろ 石崎貴裕 芝浦工業大学 工学部 材料工学科 教授	10年暴露試験によるマグネシウ ム合金板材の腐食メカニズム及 び各種促進試験との相関性の解 明	一般社団法人 日本マグネシウム 協会	50万円
2	にしだまさひろ 西田政弘 名古屋工業大学 大学院工学研究科 教授	紫外線照射・電子線照射による 宇宙用ポリイミド樹脂の複合 的劣化挙動の解明	名古屋工業大学	100万円
3	わかつき かおる 若月 薫 信州大学 繊維学部 機械・ロボット学科 准教授 (現教授)	紫外線ばく露後のアラミド織 維織物の引張強度を赤外分光 分析により予測する評価手法 開発のプレリミナリスタディ	信州大学	100万円
			合計	250万円

所属・肩書きは助成決定当時 敬称略

[国際会議助成]

該当なし

公益財団法人スガウエザリング技術振興財団

スガウェザリング技術振興財団

第 73 回 スガウェザリング学術講演会

本年度も、コロナウイルス感染拡大の影響を鑑み、第 73 回スガウェザリング学術講演会は Web 開催(ライブ配信)といたしました。今回は 406 名の方々に参加登録頂き、盛況のうちに無事終了することができました。ご聴講頂いた皆様をはじめ関係の皆様には厚く御礼申し上げます。これからもウェザリング技術にたずさわる皆様のお役に立つ情報を発信し続けて参りますので、引き続きご支援の程何卒よろしくお願い申し上げます。

(スガウェザリング技術振興財団 事務局)



スガ試験機新宿本社(NS ホール)での配信風景

- 配信期間 2022 年 11 月 25 日(金)
- 配信方法 ライブ配信
- テーマ ウェザリング研究の成果発表と最新情報
- 要旨集 要旨集(PDF※印刷不可)は
財団ホームページより購入できます。
1 部 5,000 円(税込)

*詳しくは <https://www.swtf.or.jp/kouen2022/>

講演内容

<p>低温下で生じるゴムのオゾン劣化メカニズム (第 40 回スガウェザリング財団賞表彰 科学技術功労賞受賞) 一般財団法人化学物質評価研究機構 岩瀬由佳</p>
<p>圧電素子を用いた動的・静的センサによる雪崩と落石の計測 (第 40 回スガウェザリング財団賞表彰 技術功労賞受賞) 秋田県立大学 下井信浩</p>
<p>ペロブスカイト素子の光電変換素子の用途展開と熱及び放射線耐久性評価の取組 (第 38 回研究助成 研究成果発表) 桐蔭横浜大学 池上和志</p>
<p>有機系太陽電池の耐久性評価技術の開発 (第 38 回研究助成 研究成果発表) 地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所 斎藤英純</p>
<p>次期改正 ISO 9227 の技術的変更点 スガ試験機株式会社 長谷川和哉</p>
<p>自動車用外装塗装の耐候性(特別講演) トヨタ自動車株式会社 月森隆雄</p>

(敬称略)